



目次

「図書館の在り方」をつれづれに1
鳥取県立図書館との
相互職員派遣研修に参加して8
ミニ・シリーズ・情報検索コーナーより その⑩
電子ジャーナルアクセスツール AtoZ9
2007年利用できる電子ジャーナル
..... 13
館内各種図書コーナーの紹介！14
ミニ・トピックス 16
平成19年度中央図書館カレンダー23

※ PDFファイルをご覧いただくためには、アドビ社のアクロバットリーダーが必要です(無料)。ダウンロード方法など詳細については[こちら](#)をご覧ください。

「図書館の在り方」をつれづれに

小花 洋一

この大学にお世話になって早くも2年近くの歳月が流れ、この大学図書館のことに
ついて「徒然：つれづれ」に考えてみると
いろいろなことが頭に浮かぶ。

本学附属図書館へのこれまでの課題等
については、多くの諸先輩からのご意見等
がある。その課題をどのように現時点で評価
し、反映されているか検証する必要がある。

まず、過去の経緯を考えてみると、少し
古いが平成7年1月「図書館機能の強化・
高度化について ～鳥取大学新図書館構想
(答申)～」なるものをまとめた図書館
報85号(1995年6月)及び91号(1998年
4月)にある。この答申には本学図書館を
学習図書館・研究図書館・保存図書館とし、
学術情報発信基地と位置付けする大学基幹
施設であること等が述べられ、さらに将来
あるべき大学図書館像：電子図書館機能を

持ち、高機能な情報サービス支援を行う新
図書館：学術情報館(仮
称)の構築であること
が述べられている。ま
た、100号記念号(2002
年12月)には、歴代館
長の座談会「本学図書館の来し方、行く末」
をテーマに、図書館の現状と併せて多くの
方々の図書館への想いとご意見が述べられ
ている。その中に大学図書館の役割、地域
への貢献、IT化による高機能サービス、
情報発信、組織・運営・管理面等(事務組
織の再編、財源の確保等)及び施設・設備
では学術情報館(仮称)の建設への期待が
話題として挙がっている。



次に、これまで附属図書館が行ってきた
図書館機能・サービス等について、外部評
価委員会の答申(まとめ)及び外部評価委

員の講評が、「外部評価報告：鳥取大学附属図書館（2003年3月）」として出され、その中に今後検討すべき課題等の内容がある。その指摘事項は図書館の在り方、図書館サービス、図書館資料、施設・設備、広報、地域および国際貢献、医学部分館活動について多岐にわたり述べられている。それら外部評価にある指摘事項をできるものから速やかに解決し、次のステップレベルアップをすること、そのためにはこの大学図書館はどう対処したか、機能の強化とは何かを考え進めてきたのである。

この時期は、国立大学法人化＝大学改革への取り組みとその例示などいろいろ参考になる資料が出版されている。例えば、平成15年3月「学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）」があり、平成15年6月「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について（中間報告）」、そして平成18年3月に3つのWG（1. コンピュータ・ネットワークWG、2. 大学図書館等WG、3. 学術情報発信WG）を取りまとめた最終報告としての「学術情報基盤の今後の在り方（報告）」等が出され、学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について基本的な考え方とその課題及び今後の対応策等方向性が提示された。全国の大学図書館はこの中間報告書及び最終報告書に基づいて、「情報基盤の在り方」や「大学図書館の在り方」として基本方針の策定、図書館運営等に利活用し、各大学図書館ビジョンを作成し、実施工動計画を立てて学内への還元と理解のもとに実施することが求められた。

基本的な考え方は、学術情報基盤は国全

体の学術研究の基盤であり、総合的整備が必要、「国全体」の部分で「大学全体」と言い方を換えれば、学術研究の基盤であり、総合的整備が必要であると読める。大学図書館の基本的な役割は高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとって必要不可欠な機能を持つ中核施設、電子情報と紙媒体を有機的に結びつけた、新たな意味での「ハイブリット・ライブラリー」の実現が求められている。そのため、今後の対応策として戦略的な中・長期運営計画を立案・実行することが必要であること、大学図書館の戦略的な位置付けは大学の教育研究活動を支える重要な学術情報基盤であることを明確にすること、そして、安定的な財政基盤の確立（共通経費化）と図書館活動に対する全学的な理解を得ることが重要で、そのために図書館長の役割の重要性とそれを支える専門性を有する事務組織も重要かつ必要であり、大学図書館の強化すべき機能としてさまざまな学術資料の収集・保存・提供・発信の充実に努めることも必要と述べている。まさに大学における中核＝「知」の情報拠点としての役割を担う機関として存在すべきであると述べている。

新しく取り組むものとして大学図書館と社会・地域との一層の連携の推進を掲げている。特に地域社会や産業界との連携・交流の強化や館種、国境を越えて協力することが重要とあり、もちろんこれら大学図書館のサービスを支える専門性を持った職員の確保や人材育成（キャリアパス）はさらに重要である。課題は、この提示された内容をどう鳥取大学附属図書館に反映させるのかである。先ほど述べているが今一度言

う。この最終報告等を参考にして、それを新図書館構想や外部評価も含めて、新たな「鳥取大学附属図書館の在り方」を示すビジョンは何かがまさに問われているのである。

まず、平成 17 年度は現状の把握のため学術情報部の諸課題を抽出し、平成 15 年からの実施された内容ととり残された課題の把握、認識しやすいように実行程表「附属図書館活動実績及び計画」を作成し、中期目標・中期計画等との整合も考えながら図書館情報課における解決すべき課題を検討した。その結果、1. 学術資料整備関係（学生用図書、電子ジャーナル等の充実）、2. 利用者サービス関係（情報検索、情報リテラシー教育支援、地区・地域との連携・協力等）、3. 鳥取地域連携（社会貢献）関係、4. 施設・設備の充実等が重要であると考え、早期解決に向けて協議とその実施について専門委員会やWGを設けて検討を開始することとした。大学図書館としてのやるべき方向は学習・教育・研究支援の利用者サービスとこの特色ある地域に合わせた社会貢献（地域サービス支援等）の 2 点である。

上記課題 1～4 について、平成 17 年度の成果は次の通りである。

学術資料整備関係では、平成 17 年度整備計画に基づき電子ジャーナル等の利用ログの統計分析とその内容公開を実施し、利用者アンケートも併せて行って、利用者の声を今後の整備計画に反映させることに努力した。また、学術資料費の共通経費化の実現に向けて中国・四国地区ブロック：地域コンソーシアムの設置と価格交渉など、他大学の状況も踏まえながら電子ジャーナ

ル、学術文献データベースの価格を下げる交渉を行った。そして、電子ジャーナルを出来るだけ継続させることと学術資料費の財源確保のため、冊子体から電子媒体への転換を進めた結果、約 10%の経費削減を実現できた。ただし、これまでの傾向として毎年購入価格は値上がりし、外国為替の変動による価格上昇もあり、不確定な要素も多い。その意味で、予想した値上がり幅を超えることも考えておかねばなるまい。

地域連携関係では、鳥取市内 4 図書館（当館と鳥取県立図書館、鳥取市立図書館、鳥取環境大学情報メディアセンター）の連携強化を図り、当館と鳥取市立中央図書館、医学部分館と米子市立図書館の図書館利用の相互協力に関する協定を結ぶことが出来た。特に大学図書館として館種（県立、市立図書館等）を超え、両図書館が持つ物流網の相互利用を背景にした県内一円で利用可能なサービス体制の「新しい連携協力モデル」を構築することができた。

また、新図書館：学術情報館（仮称）の構築という面では、いろいろ施設環境部とも検討を重ねて、他大学への施設見学等も積極的に行い、「平成 17 年度図書館建物見学報告書」を作成するとともに報告会等も開催して、お互いの理解を深めた。新図書館構想については総合メディア基盤センターと附属図書館との統合であるので、概算要求とするには全体的なインパクトが弱く、もっとドラスチックなものを検討してはどうかとの指摘が施設環境部よりあった。そのため、再度検討することとなった。

平成 18 年度の事業計画は、平成 17 年度より引き続き継続するものと課題解決がで

きなかったものを中心に 14 項目を作成した。主な内容は次の通りである。

1. 学術資料費について平成 19 年度経費の確保と平成 20 年以降の整備計画の策定
2. 図書館利用に関するアンケート実施とその結果分析に基づく対応
3. 公共図書館とのさらなる連携強化によるサービスの拡大
4. 情報発信機能の強化として鳥取大学機関リポジトリの構築
5. 中国・四国地区大学図書館の活性化(キャリアアップ、事業委員会等)
6. 学術情報館構想実現に向けての活動

上記課題 1～6 について、年度途中ではあるが、平成 18 年度の成果は次の通りである。

前年度に引き続いて、課題 1～2 は、学術資料費の確保のため電子ジャーナル等の利用ログの統計分析や統計資料の作成、HP での学内公開等を行い、大学の教育・研究の基盤インフラとして電子ジャーナルの必要性和学内への説明並びにその啓蒙と理解を図った。そして、昨年度より詳しい内容の利用者アンケートを実施し、利用者の声をより反映させることに努力した。また、学術資料費の共通経費化(大学戦略経費)が実現し、財源の確保が出来た。特にエルゼビア社：電子ジャーナルデータベースのバックファイルについて、すべて創刊年より検索することが出来るようになった。このことにより、大学教育・研究面での学術情報基盤の一つが導入出来たと見え、この導入に際しては、多くの方々の努力によるところが多い。特に能勢学長や高木理事の英断は、大変大きいものがある。

課題 3 は、昨年度に続き公共図書館とのさらなる連携強化を図り、利用者サービスを拡大することである。地域連携は、当館と倉吉市立図書館、医学部分館と境港市立図書館の図書館利用の相互協力に関する協定を結ぶことができ、このことにより、鳥取県全域の図書館ネットワークが構築され、図書館所蔵データ(約 240 万冊)の横断検索が可能となったことで「鳥取県図書館連携協力モデル」第一段階が完成した。第二段階として現在進行中であり、今後、県内全域の高校図書室や町立図書館への利用支援等も拡大して進める予定である。

この連携協力モデルは全国でも初めてのケースと言える。多くはお互いに協定書は結ぶが、それから先の進展がなく活動していないのが実情であるが、その点、鳥取県は協定書にある事業すべてにわたり連携して実施しており、特に講演会、展示会の共催事業は活発である。また、今年は相互職員派遣研修が当館と県立図書館との間で実施された。

課題 4 は、現段階ではたたき台：「鳥取大学の学術成果リポジトリの構築について」が作成され、今後この内容の検討が開始される。特に機関リポジトリにおける学内への説明と啓蒙、その機能と役割分担及び内容のチェック体制や著作権問題の明確化等を大学内のどの組織で管理運営するか、また、どの委員会やWGで協議するか、現在、情報委員会等で思案中である。今後の進め方が重要で大学の情報発信の要になる。

課題 5 は、中国・四国地区大学図書館の活性化を図ることを目的に事業委員会を立ち上げて、図書系・学術情報系職員の人材

養成（キャリアアップ）を兼ねて専門的能力のレベルアップと地区ブロックの人のつながり・コミュニティを共同事業の中で構築する。その事業委員会の委員長館として今年から鳥取大学がその役割を担っている。現在、3つの事業グループ（E：電子化対応、S：地域連携、L：地域講習会）が活動しており、2月上旬に総会を開き報告書をまとめている。また、職員のキャリアアップの達成度（レベル）は、申請による資格認定制度があり、獲得したポイント数によって上級、中級、初級の資格認定が可能で平成18年度より実施し、資格認定者は地区HPで公表されており、中国・四国地区の人事交流等の参考資料として活用することが出来るようになった。

課題6は、概算要求とするには全体的なインパクトが弱く、もっとドラスチックなものを考えることの指摘を受け、再度、検討し直すこととなった旨を述べた。検討した結果、大学全体のキャンパスマスタープランとの整合性も勘案しながら大学将来構想と併せて、その上で大学図書館の将来像を構築することにした。この構想は、あくまでも私ひとり、こうなれば良いと頭の中で模索したものであり、このような形ができれば、国立大学法人の新しい地方大学像になるのではと考えている。まだ実現にはほど遠いが中・長期定期展望と施設環境部が作成中のキャンパスマスタープランを今後見ながら対応したい。

まず、戦略情報館（仮称）の基本的な考え方は、一つの建物に事務局、情報センター、附属図書館を同居させ、大学運営を総合的に行うというものである。つまり、人に例えれば、ヘッド：頭であり、頭脳、企

業ではシンクタンクとも言うが、そのような機能を併せ持った部門を設置して、それに合わせて建物を増改築または新築する必要がある。主な業務等は、将来像の構築のため戦略を考え企画し、大学の方向性や在るべき姿を政策・立案して、学長に答申するための資料（企画書）を作成する。そのために情報の蓄積及びその分析等を行う部門も必要である。また、その結果を大学のHPを通じて学内外に情報発信をする。

次に、その基本構想は、戦略情報館（仮称）機能図及び学術情報館：人の集まる *agora*（仮称）のイメージ図を作成し、以下のような戦略情報館の役割と機能を考えた。

基本構想として、

- ・企画・戦略本部（シンクタンク）機能の構築がスムーズに計れる。
- ・大学全体のマスタープランの策定が迅速に行える。
- ・経営・企画に関して情報のデータ分析とその調整及び決定がスピードアップ化。
- ・連絡・調整・協議等の時間の節約（同一の建物内で人の動線がシンプルになる）
- ・人・物・金については、1. ひととは効率的・機能的な組織運営が可能となり、2. 物（建物）は施設・設備等の省エネ化が図れ、3. 金は財政基盤の安定的継続とその運用（メリハリ：大学の独自性）が可能となる。
- ・長期的視野に立った大学全体のランニングコストの削減が可能となる。
- ・情報基盤（ネットワーク・サーバー等）の一元管理と情報リスクへの対応がス

ムーズ

- ・学習・教育・研究支援体制の強化と国際化への対応
- ・地域社会との連携強化と産官学への対応

などが挙げられる。

また、大学全体の運営として企画・戦略・情報館の役割とその機能についても、

1. 学長を補佐し、大学のシンクタンクとして中・長期的企画・戦略を策定し、統合事務局としての機能を併せ持つ。
(将来への中期目標・中期計画の策定含む)
2. 学習・教育・研究を支援する機構として位置づけ、教育・研究支援マスタープランを策定し、その実現を図る。
3. 地域社会との窓口となり、産官学連携強化に努め、地域の活動センターとしての機能を併せ持ち、生涯学習支援センターとして鳥取県内の情報拠点の役割も持つ。
4. 大学の情報基盤を支えるセンターとして機能し、学術研究成果の発信や新たなIT教育の在り方を研究し、実践する。(図書館・学術情報・情報基盤)
5. 学術情報や学術資料を提供し、最先端の学習環境を支援する図書館機能を有し、公共図書館とも連携し、地域住民への読書文化の普及機関としての機能を併せ持つ。
6. 国際交流及び大学間連携協力の窓口となり、留学生支援センターとしても機能する。(国際交流)

などが考えられ、これらを如何に速やかに実現できるかが課題である。

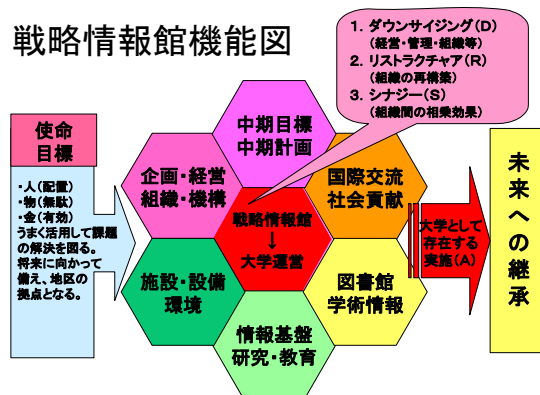
終わりに、この2年近くの取り組みの成果は、『鳥取大学図書館』を学外及び大学内に広く知らしめたことであると言って下さる方々がおられ、それが一番有り難いことです。また、これは視点を変えれば、学術情報部がそれなりに機能出来たということです。その背景には和泉副学長、小林副学長、山岸センター長のバックアップなくしてはあり得ないことです。さらに、多くの人々のご理解とご協力があってこそ、図書館の存在意義も理解されたのではないかと考える次第です。

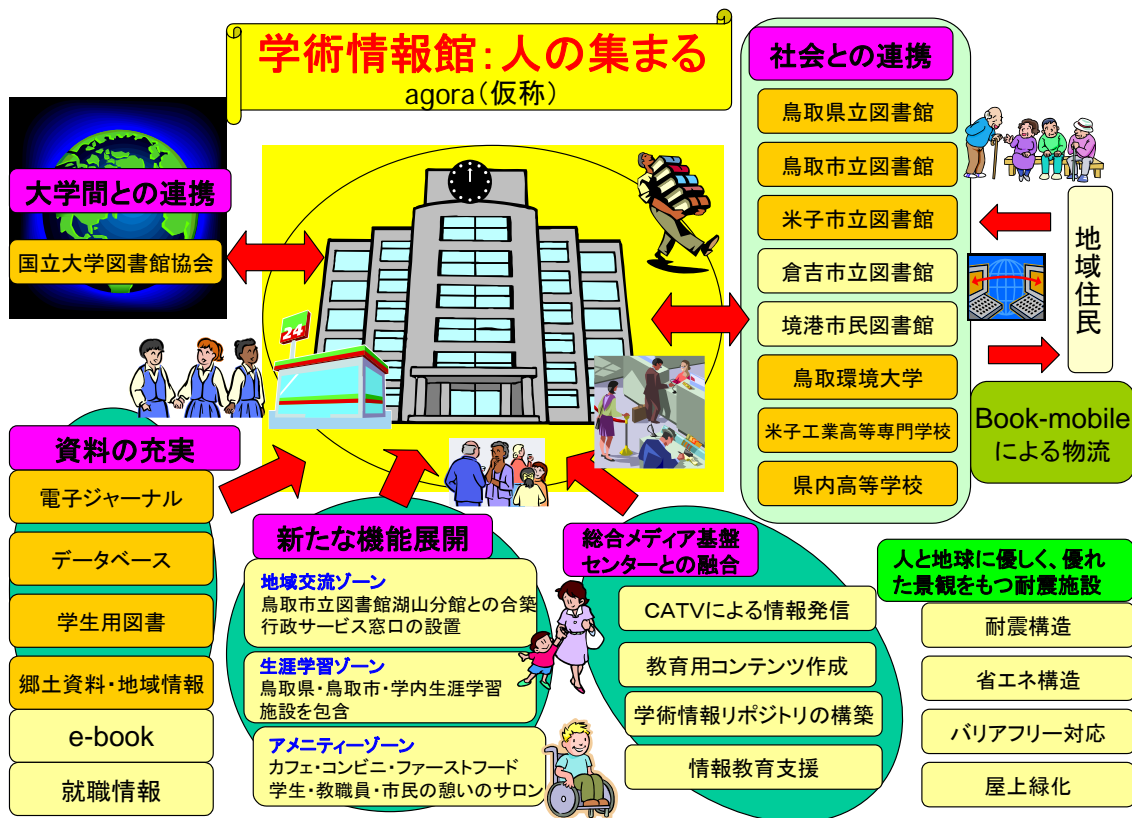
「図書館の在り方」を常に追求し、その時代の変化に合わせて図書館システムの最適化を図っていくことが、私どもの使命と考えています。大学基盤の重要な位置づけとしての図書館に、これからも学術情報機能とその活用方法について更なる進化を目指して、各人の努力をお願いしたい。

(平成19年2月28日原稿受理)

(学術情報部長)

戦略情報館機能図





学術情報館: 人の集まるアゴラ(仮称)イメージ図

参考文献および資料

1. 鳥取大学附属図書館報 第85号(1995)、第91号(1998)、第100号記念号(2002)、第105号(2005)
2. 「学術情報基盤の今後の在り方(報告)」(2006年3月)、100p.
3. 「鳥取大学学術情報部をめぐる諸問題 ～附属図書館のあり方を中心に～」(2005年9月)、41p. (パワーポイントによる説明資料)
4. 学術資料費(電子ジャーナル、学術文献データベース、図書資料)の整備計画資料
 - ・(2004年9月)、10p. 2005年～2007年までの3カ年実施計画書
附属図書館委員会及び電子図書館専門委員会です承
 - ・(2007年3月)、12p. 2008年～2010年までの3カ年実施計画
附属図書館委員会及び電子図書館専門委員会です承
5. 大学図書館が求める人材像について(素案) ～大学図書館職員のコンピテンシー～
(2006年4月)20p. 国立大学図書館協会 人材委員会
6. 「これからの図書館像 ～地域を支える情報拠点をめざして～(報告)」
(2006年3月)、94p. これからの図書館の在り方検討協力者会議
7. 白木俊男、森田正. 「鳥取大学附属図書館における社会貢献の現状: 県内図書館との連携」
大学図書館研究 2006, No. 76. p. 54-61.
8. 森田正. 「鳥取大学附属図書館と県内図書館ネットワーク」 図書館雑誌 2006, 100(5) p. 276-277.
9. 石田園子. 「地域貢献の現状: 鳥取大学附属図書館の場合」 医学図書館 2006, 53(4) p. 404-409.

鳥取県立図書館との相互職員派遣研修に参加して

宮崎知子

鳥取大学の図書館のカウンターで貸出しの申し込みをすれば、鳥取県立図書館の資料が無料で翌日か翌々日には本学図書館のカウンターで受け取れることをご存知でしょうか。

平成14年12月、鳥取県立図書館と鳥取大学附属図書館は両館の利用者等の学習、教育、研究活動に資することを目的に「図書館利用の相互協力に関する協定書」を締結しました。この協定には上記のような資料の貸借や文献複写をはじめ、さらに両館の職員の相互交流についても定められており、これに基づいて今回初めて実施された相互職員派遣研修に参加させていただきました。

この研修の目的は、互いの業務を体験することで、互いの業務を理解し、自分の業務を見直し、両方の図書館を利用される方によりよいサービスを提供できるよう相互協力を向上させることです。同じ図書館といっても、県民全体の仕事や教育や趣味に役立つこと、県下の公共図書館をリードすることを目的とする県立図書館と、学生や教職員の皆さんの専門的な研究や学習に役立つことを目的とする大学図書館では、購入する資料や職員に必要な知識の種類が異なります。そのような役割の異なる図書館業務を体験すると共に、他の職場での日常業務を体験させていただくことで、自分の普段の業務を別の視点から見直したいという個人的な目的でした。

研修は、昨年9月4日から8日までの5日間行われ、毎日「県立図書館ではこんなこともされているんだ」といった驚きの連続でした。それは、県立図書館の利用者の年齢層は幅広く、

利用される目的も様々というのが大きな理由です。本学附属図書館では「学習したり研究したりされている学生のみなさん」の今の姿しか見られなかったのですが、県立図書館を利用される方の中に、学生のみなさんの過去と将来の姿が重なります。児童図書室で絵本を読んだり、郷土資料室で郷土の歴史を調べたりした子供の頃の姿、宿題や受験勉強のため図書館で調べものをした高校生の頃の姿、大学を卒業して社会人となって仕事で図書館を利用するだろう将来の姿。人生で最も知識を吸収するときに、学生のみなさんは鳥取大学の図書館を利用しているのだなあと感じるようになりました。そして、大学生の今だからこそ専門的な情報を多数収録する大学図書館を最大限利用していただくようアピールしなくてはと、強く思いました。

また、自分も普段は利用者の一人である県立図書館のカウンターの内側から、他の利用者が図書館へ何かを求めて来られるのを直接見せていただいたことは、改めて大学や図書館の地域貢献のあり方について考える機会となりました。

鳥取大学附属図書館は、県内の他の公共図書館とも協定を結び、講演会や研修、資料の貸借などで相互協力しています。今後もこのような研修が広がり、それぞれの図書館や職員の知識と経験が共有され、サービスに活かせることを希望します。

(資料管理係員)

電子ジャーナルアクセスツール A-to-Z の紹介

A-to-Z とは、鳥取大学でフルテキストが利用できる電子ジャーナルの全タイトルリストです。
ABC 順・主題別・提供サイト別の一覧表示や、雑誌名・出版社・ISSN での検索ができます。

◆◆◆ リストの見方 ◆◆◆

①電子ジャーナルのタイトル(雑誌名)

②電子ジャーナルのサービス名, 収録範囲, 注記

- ・サービス名をクリックすると、電子ジャーナルのページが別画面で開きます。
- ・複数のサービスで提供されている場合は、収録範囲にご注意ください。

③注記事項

- ・閲覧禁止期間 : 発行後 3 ヶ月間は利用不可(3 ヶ月経過後は利用可能)という意味です。
- ・Yonago only : 米子地区のみ利用可能

④鳥大蔵書検索(OPAC)へのリンク

- ・①の雑誌が鳥大に所蔵されているか OPAC を自動検索します。
- ・ISSN をキーとして検索しています。ISSN 項目がない雑誌の場合は、「検索条件を入力してください」

というエラーが表示されますので、雑誌名など他の項目で検索し直してください。

- ・鳥取大学で所蔵していない雑誌は、他機関からコピーを取り寄せるサービス(ILLサービス)をご利用ください。

◆◆◆ 検索方法 ◆◆◆

≫【**タイトル**】タブをクリックすると、アルファベット順にタイトル一覧を見ることができます。

- ・タイトルの冒頭の冠詞(The など)は無視してください。
- ・件数が多い場合は、プルダウンで目的の箇所へジャンプすることができます。



≫【**検索**】タブをクリックすると、雑誌名、出版社名、ISSN から検索可能な詳細検索画面がひらきます。

- ・「Nature」や「Science」などタイトルが1語の場合は、タイトルを入力して「**完全一致**」にチェックして検索すると便利です。
- ・複数語からなるタイトルの雑誌を検索する場合は、語尾に*(アスタリスク)を付けて前方一致検索をすると便利です。 (例) Journal of the American Chemical Society → jour* amer* chem* soc*
- ・ISSN で検索する場合は、ハイフンはあってもなくても構いません。1234-5678 や 12345678 のように入力し、ISSN にチェックして検索します。

※論文検索はできません。各出版社ごとに提供されているサービスから検索してください。

→ 【Index】タブへ または、[各種データベース](#)をご利用ください。

>>【インデックス】タブをクリックすると、A-to-Zに登録されている電子ジャーナルサービス一覧を見ることができます。

- ・サービス名をクリックすると、各サービスのホームページがひらきます。
- ・View Titles をクリックすると、収録されているジャーナル一覧を見ることができます。



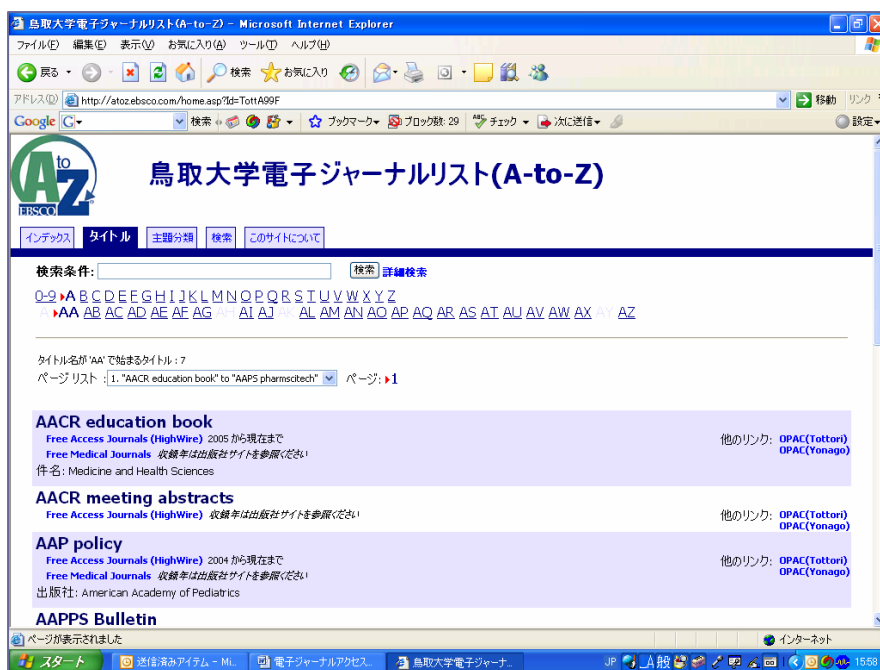
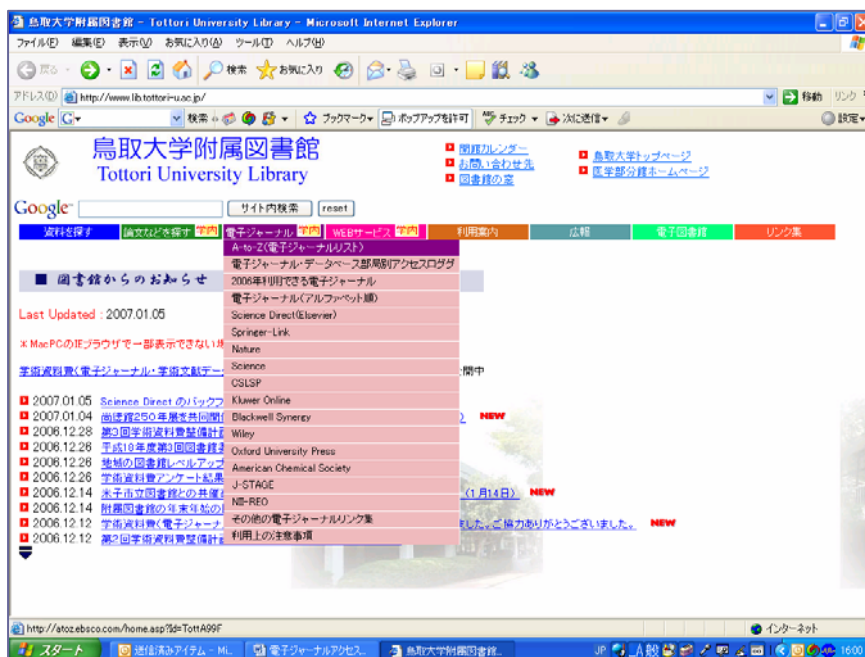
>>【主題分類】タブをクリックすると、分野別のタイトル数を見ることができます。

- ・さらに各項目をクリックすると、分野別のタイトル一覧を見ることができます。
- ・分類は米国議会図書館の分類表(Library of Congress Classification)を用いています。



利用の手順

- ① 図書館のホームページ(<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>)へ接続してください
- ② 電子ジャーナル(学内)のところへポインターを持ってきてください。
- ③ A-to-Z 電子ジャーナルリストをクリックしてください



2007年 利用できる電子ジャーナル

2007年に利用できる電子ジャーナルについてご紹介します。今年度より、**ScienceDirect**、**Springer-Link**、**Oxford Journal** の各電子ジャーナルのバックファイルが利用可能になりました。

電子ジャーナル パッケージ名	内 容	利用可能 タイトル数	利用可能 範囲
Science Direct	Elsevier Science 社とその関連出版社の学術雑誌 が利用できます。	2,175	創刊号～
Springer-LINK	Springer 社・Kulwer 社出版の学術雑誌が利用で きます。	1,228	創刊号～
Blackwell Synergy	Blackwell 社 発行 の 自 然 科 学 誌 (STM Collection)と人文社会科学誌(SSH Collection)が 利用できます。	755	1997～
Wiley Interscience	John Wiley & Sons 社から刊行されている科学技 術、医学などの専門分野のジャーナルが利用できま す。	528	1996～
ACS(American Chemical Society)	米国化学会 American Chemical Society (ACS)が発 行するコアジャーナル 24 誌のフルテキストが利 用できます。	24	1996～
Oxford Journal	Oxford University Press cla から刊行されている 160 cla タイトルが利用できます。	166	創刊号～
Nature 本誌 + 6 誌	Nature Publishing Group が刊行する世界的に有 名なイギリスの自然科学系雑誌 Nature の電子ジャ ーナル+姉妹誌 6 誌が利用できます。	7	1997～
Science	雑誌「Science」(1997年頃～)が利用できます	1	1997～
IEEE CSLSP-e	IEEE Computer society から刊行される雑誌 24 種類が利用できます。	22	1988～
その他個別タイトル		108	
合計		5,014	

[その他 フリーアクセスを含め、約 8,000 タイトルの雑誌が利用可能です。図書館ホームページ \(http://www.lib.tottori-u.ac.jp/\)に利用可能電子ジャーナルのリストを作成していますのでご利用ください。](http://www.lib.tottori-u.ac.jp/)

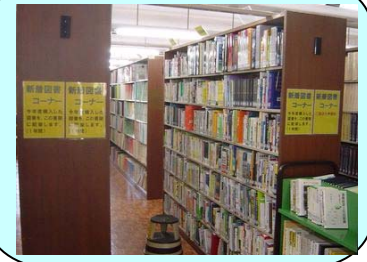
館内各種図書コーナーの紹介！

館内の図書の配架は、1階に参考図書（事典・ハンドブック等）、2階に貸出できる図書を配架していますが、それ以外に専門コーナーを設けて配架している図書があります。それら各種コーナーの図書について紹介します。

1 階

新着コーナー

新しく購入した図書を約1年間配架しています。新規受け入れ図書につきましてはこのコーナーをご覧ください。現在は平成18年度図書館購入図書（各コーナー図書は除く）を配架しています。平成19年度分を配架する時期には2階の所定位置に配架します。



ベストセラーコーナー

平成17年度よりを設置しました。最新のベストセラー図書を予算の範囲で購入しています。現在約300冊の図書を配架しています。



視聴覚コーナー

情報メディアルーム内に視聴覚室があります。DVD、ビデオ等書架にパッケージが並んでいますので、パッケージをカウンターまで持参し、カウンターで手続きをしてください。



2 階

教養文庫コーナー

平成13年度から購入している文庫本を約3,200冊配架しています。（岩波文庫・岩波新書・岩波現代文庫・岩波ブックレット・東洋文庫・文庫クセジュ）



教科書コーナー

県内東部地区の小・中学校の教科書と指導書、工業高等学校関係の教科書を配架しています。



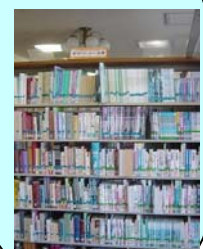
日本紹介コーナー

海外からの留学生の為に日本を紹介する図書や辞書を揃えています。ライオンズクラブから寄贈された図書も配架しています。



留学生コーナー

海外へ留学するための関係資料を配架しています。



教員著作コーナー

本学教員から寄贈を受けた著作図書を配架しています。今後もできるだけ多くの図書を整備していく予定です。



シラバスコーナー

一般教養、地域、工学部、農学部、シラバスを配架しています。幅広く、効率よく利用していただくために、**館内閲覧のみです。**



地域関係図書コーナー

地方自治や地域学に関する図書を配架しています。



ベンチャービジネス関係図書コーナー

ベンチャー・ビジネス、企業などの図書を配架しています。



郷土資料室

鳥取県や山陰地方関係の資料を配架しています。**館内閲覧のみの取り扱いですが、貸出できる同じ図書が2階閲覧室にも一部配架されていますので、OPACで確認してください。**

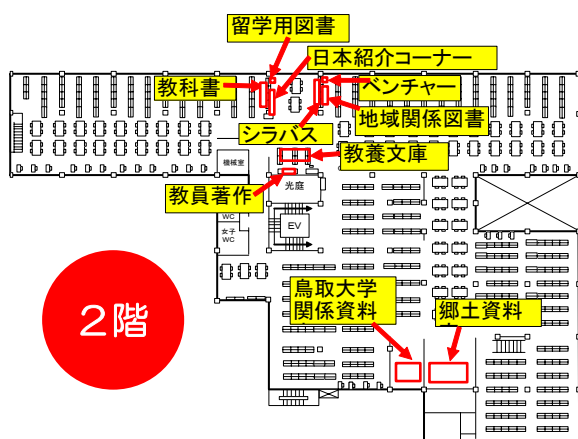
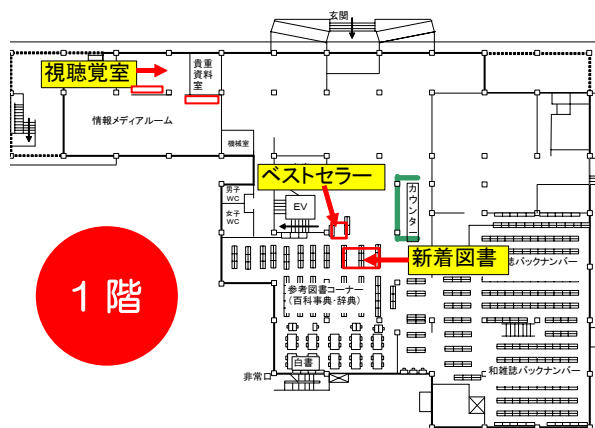


鳥取大学関係資料室

鳥取大学関係の資料(鳥取大学発行の図書、博士論文等)を配架しています。利用される場合はカウンターで手続きをしてください。ただし**資料室内のみの利用となります。**



各種コーナー配置図



////////////////////////////////////ミニ・トピックス////////////////////////////////////

養護学校生徒の現場実習を受け入れました！

附属図書館では今年度も2つの中学校の職場体験学習を受け入れましたが、これに続いて、10月30日から11月1日までの3日間、本学附属養護学校の現場実習に協力して高等部生徒1名を受け入れました。

これは、一定期間、校外の事業所等で作業学習を体験することによって、勤労の意味や喜びを体得させるとともに、生産活動を通じて協調性や社会性を育成し、社会参加へ向けて必要な資質を育成するため毎年実施されており、当館では今年度初めて受け入れたものです。

生徒は、慣れない作業に戸惑いながらも、カウンターでの図書の貸出・返却処理や書架

の整理作業などを通して職場に於ける基本的なルールや社会的態度を熱心に学び、「難しいことがたくさんあったけれど、いろいろなことが学べてよかった。」と感想を話していました。



////////////////////////////////////

地域の図書館レベルアップ講演会を開催

附属図書館では地域の図書館全体のレベルアップを目指し、平成18年度「地域の図書館レベルアップ貢献事業」として鳥取県内の図書館職員を対象にした図書館講演会を県東部と西部で2回にわたり開催しました。当館は県内唯一の総合大学の図書館として、今後も貢献事業を継続的に行い、地域図書館のレベルアップに努めていきたいと考えています。

西部会場

11月30日に米子市立図書館において、「健康情報棚プロジェクト」の代表を講師に「患者・家族・市民の視点に立った図書館のできる健康・医療情報の提供」の講演会を開催しました。協力協定を締結している米子市立図書館、境港市民図書館などの公共図書館のほかに、今まで直接交流の少なかった学校図書館、また病院図書室からも参加があり、健康・医療情報に関心の高い一般市民もまじえて60名の参加となりました。

参加者は、市民・患者へわかりやすい健康・

医療情報を届けるためには、患者当事者の“知りたい”というニーズの視点を常に意識し、資料内容を重視した展示が必要であることや、館種により収集資料の違いがあるため、図書館のネットワークが大切であることなど利用者主体の情報提供が必要であることを再認識しました。また、「からだといのちの図書コーナー」については、現在の教育現場では特に必要であるため、多くの学校図書館員が「自館でも設置したい」とアンケートに答えていました。

東部会場

12月22日に鳥取市立中央図書館において、南亮一氏(国立国会図書館)を講師に「図書館サービスと著作権の関係について」の講演会を開催し、県内の公共図書館・学校図書館関係者や一般市民ら63名が参加しました。

最初に著作権法の基礎知識について説明があり、次に閲覧、貸出、複写など個々の図書館サービスにおける著作権の関わりを、具体的な事例をまじえながらわかりやすい解説がありました。また、質問コーナーでは、事前に参

加者から寄せられていた質問と会場での多数の質問について講師からの確かな回答があり、今後の図書館サービスに多いに役立つ講演会となりました。



鳥取藩校「尚徳館二五〇年展」を共同開催

1月27日(土)から2月25日(日)まで「尚徳館二五〇年展」を、当館と鳥取県立図書館及び本学地域学部の3者の共同で県立図書館を会場に開催しました。

これは、今年、鳥取藩の藩校「尚徳館」が創設されてちょうど250年の節目に当たるのを記念して開催したもので、鳥取県教育の重要な基盤の一つともなった尚徳館の図面や蔵書、教授が遺した書跡等51点を各館が持ち寄り、一堂に集めて公開しました。

また、2月3日(土)にはその関連事業として

同じ県立図書館を会場に講演会を開催し、本学地域学部岸本覚助教授が「幕末の尚徳館」、また、鳥取県立図書館北尾泰志郷土資料課長が「尚徳館の算術教育とその意味」の講演をそれぞれ行いました。

会場には熱心な郷土史ファンなど約60名が集まり、質問コーナーでは「藩主に国学を推奨したのは一体誰だったか、修了時に何か資格を与えたか、当時の授業料はどれくらいだったか」などの具体的な話題にまで広がり、大変興味深いものとなりました。



↑ 絵図や沢山のデータを駆使しての講演会

← 藩校尚徳館の歩みを振り返る公開展示

////////////////////////////////////

平成 18 年度第 2 回 鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

平成 19 年 1 月 26 日、県内東部の大学図書館と公共図書館(当館、鳥取環境大学情報メディアセンター、鳥取県立図書館、鳥取市立中央図書館の 4 館)から実務担当者 16 名が参加して、標記の会議を県立図書館で開催しました。この会議は、業務の連携と協力を推進するとともに、実務者レベルでの相互の図書館の充実と発展に寄与することを目的として当館と県立図書館が中心となって平成 17 年 6 月から

開催しているものです。今回は、各館の活動状況に続いて、当館と県立図書館の相互職員派遣研修と尚徳館 250 年展、当館の「地域の図書館レベルアップ貢献事業」、鳥取市立図書館の電算システムの統合等について報告があった後、電子媒体のみの行政資料の収集と保存、鳥取大学資料の高等学校全県貸出、ケーブルテレビ(いなばびよんびよんネット)を使った広報などについて協議しました。

////////////////////////////////////

国大図協・中国四国地区事業委員会総会を開催

平成 19 年 2 月 1 日(木)、本学附属図書館(地区副理事館)において、国立大学図書館協会平成 18 年度中国四国地区事業委員会総会を開催しました。

この事業委員会は、平成 16 年度の大学の法人化にあたり、図書館を取り巻く環境の変化と諸問題へ対応するため、地区図書館職員のスキルアップとコミュニティづくりを目指して設置されたものです。事業委員会の下に活動している電子化対応事業グループ【E】及び地域連携事業グループ【S】に加えて今年度から地域講習会グループ【L】を新設し、地区図書館職員の活性化に向けたさまざまな事業の取り組みを行っています。

各事業のグループ主査から平成 18 年度活動について報告があった後、来年度の事業計画について協議を行いました。新たな事業グ

ループの設置や、体制のあり方について熱心に討議され、閉会後も引き続き意見交換会を行うなど、改めて地区内図書館職員の結束の固さを認識するとともに、大学図書館の使命として学術情報基盤の整備や社会貢献などしっかりとしたビジョンをもって活動していく重要性を確認した総会となりました。



【本学 VBL での事業委員会】

////////////////////////////////////

医学部分館が南部町立図書館（鳥取県）と相互協力協定を締結

平成 19 年 2 月 27 日、本学医学部分館は南部町立図書館と相互協力協定を結び、同町立図書館本館において調印式を行いました。この協定は当館にとり県内公共図書館として 6 館目に当たるとともに、町立図書館では初めての締結です。同町立図書館は小規模な図書館ながら、2005 年に「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞するなど精力的な活動を行っており、調印式は TV、新聞等の地元メディアでも多数紹介されました。

引き続き協定記念講演会を共同で開催し、同大学附属図書館医学部分館長でもある岸本拓治教授が、「生活習慣病予防について～良い生活習慣から健康づくりへ～」の演題で講演を行いました。この中で同教授は、悪い生活習慣が多くの原因となっているメタボリックシ

ンドロームなどの生活習慣病の予防や、昨今問題になっている捏造テレビ番組に触れながら氾濫する健康情報の見きわめ方などについて解説しました。

今や生活習慣病全般への関心が高まっていることもあり、平日にもかかわらず会場には 40 名余りの参加者が耳を傾け、アンケートには「わかりやすくてよかった」「億劫だったが健診を受けようと思う」などの声が寄せられました。



////////////////////////////////////

平成 18 年度 鳥取県大学図書館等協議会総会の開催

平成 19 年 3 月 12 日(月)、平成 18 年度鳥取県大学図書館等協議会総会(第 6 回)が鳥取環境大学にて開催されました。今年度の副幹事館である鳥取環境大学遠藤辰雄情報メディアセンター長による挨拶の後、同校川本図書情報課長が議長を務め、各館の活動状況の報告や各図書館組織の全国的な動向の紹介が行われました。その後、加盟館実務者メーリングリストを立ち上げて実務

レベルの情報交換を密接に行うことや公共図書館の配送システムを利用した加盟館間の相互貸借の実施などについて協議しました。来年度の幹事館は引き続き鳥取大学とし、副幹事館は鳥取短期大学を選任して総会を終了しました。

総会終了後、鳥取県立図書館小林隆志氏から「鳥取県立図書館のビジネス支援“到達点と課題”」と題した同館のビジネス支援

事業の具体的な取り組みや今後の展望について講演があり、全県レベルでの図書館サービスの今後の在り方や役割について意見

交換を行い、今後とも館種をこえた連携が必要であることを痛感しました。



学生用図書の教員からの紹介文を

1 階新着コーナーへ掲示

選んでいただいた図書が学生に広く利用してもらえるよう、選定をされた先生方に図書の紹介文(推薦文)をお願いしました。

その結果、地域学部 8 名 20 件、工学部 7 名 27 件、連合大学院 2 名 2 件、合計 17 名 49 件の先生からの紹介文がありました。

紹介図書は新着コーナーに配架し、紹介文

は自由に持ち帰って利用してもらえるようパンフレット形式で同棚に配置しました。

利用促進のためHPに掲載していますので、関心を持った図書、興味のある図書等は実際に手にとって積極的に利用してください。

一部の例を下記のとおり、掲載します。

(例)

教員からの学生用図書紹介 1

平成 18 年度に購入した学生用図書の中で、教員より下記資料の紹介を頂きました。ご覧の上、その図書をご利用下さい。

ポスト資本主義社会

経営学の神様と称されたドラッカーによる本書は、ポスト資本主義の時代をむかえた現代を「知識社会」とみる。これからの世界では知識が最も重要な経営資源となるため、教育の重要性を指摘。読みやすい本です。(地域学部 野田邦弘教授)

請求記号 304:Pos 新着コーナー

日本語文法がわかる事典

ガとハの問題、敬語、助動詞、ラ抜き言葉など 50 音順に約 270 項目を収録し、従来の抽象的な解説ではなく、実例を数多く紹介しながら「〇〇とは何か」の問いに答える形の文法事典。日常話している日本語の文法について疑問が生れたとき開いてみて下さい。(地域学部 榎木久薫助教授)

請求記号 815.033:Nih 参考図書コーナー

その意味でも闘病記文庫設置の意義は大きい。」
と熱く語られました。

各会場は、家族連れも含めた参加者で溢れ、
中には同教授の講演を聴くのは5度目という熱烈

なファンもありました。回収したアンケートには、パ
ワフルで明るい先生に元気をもらった、前向きに
生きていく大切さをあらためて考えさせられたなど
の感想が用紙いっぱい寄せられました。



平成19年度附属図書館委員会委員

(平 19. 3. 30 現在)

附属図書館	館 長	高 阪 一 治	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医学部分館	分館長	岸 本 拓 治	平 18. 4. 1 ~ 20. 3. 31
地域学部	教 授	田 中 仁	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
〃	助教授	住 川 英 明	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医 学 部	教 授	前 田 隆 子	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
工 学 部	教 授	木 村 晃	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
〃	講 師	土 井 俊 行	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
農 学 部	教 授	山 本 福 壽	平 19. 4. 1 ~ 20. 3. 31
〃	教 授	佐 藤 俊 夫	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
連合農学研究科	教 授	森 信 寛	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
地域共同研究センター	助教授	岡 本 尚 機	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
生命機能研究支援センター	助教授	森 本 稔	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
乾燥地研究センター	助教授	安 田 裕	平 17. 12. 20 ~ 20. 3. 31
大学教育総合センター	教 授	田 畑 博 敏	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
総合メディア基盤センター	教 授	西 田 英 樹	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医学部分館	運営委員	松 浦 達 也	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31

■平成19年度 鳥取大学中央図書館カレンダー■

通常：9:00～21:00
休館日

試験期：9:00～22:00
図書整理日：13:00～21:00

土日祝日開館/鳥取大学創立記念日
休業期平日
9:00～17:00

2007 4 Apr						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5 May						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6 Jun						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7 Jul						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8 Aug						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9 Sep						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10 Oct						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11 Nov						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12 Dec						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2008 1 Jan						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2 Feb						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

3 Mar						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

鳥取大学附属図書館報 第109号 (2007年4月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6727 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail]k030000@zim.tottori-u.ac.jp/ [ホームページ]http://www.lib.tottori-u.ac.jp/

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

